

第2学年 道徳科学習指導案

令和3年11月24日（木）

- 1 主題名 きまりをまもろう 内容項目【C 規則の尊重】
- 2 ねらい 約束を守らなければいけないと分かっているにもかかわらず心の弱さや、約束を守れなかったことによる失敗から学ぶ子鹿達に自我関与させて話し合うことを通して、きまりや約束を守る事の大切さに気付きそれを守っていこうとする態度を育てる。
教材名 「オレンジ色の木のみ」（出典：学研教育みらい「新・みんなのどうとく」2年）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は 低学年の内容項目【C 規則の尊重】「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。」をねらいとしている。これは、中学年内容項目「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」を受け、高学年内容項目「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」に発展していく。また、中学校の「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」につながっていく。

2学年のこの時期は、約束やきまりを守らなければいけないとうことは理解しているが、発達的な特質から自己中心的な考えをしがちである。そのため、自分勝手な行動をとり、これくらいならという気持ちや、自分だけならという気持ちが勝り、衝動的に行動してしまう傾向がある。特に友達と夢中になって遊んでいる場面では、自分の思うままに行動し周囲の人が迷惑に感じていることに気付かないでいることが多い。

そこで、なぜ、きまりを守って生活しなければならないかを十分に考えさせ、自分勝手な行動をすることなく、みんなのことを考えて生活していこうとする態度を育てたいと思い、本主題を設定した。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、これまでの道徳の授業「黄色いベンチ」で、「約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること」を学んできた。また、学校生活オリエンテーションで学校のきまりを学んだり、月目標「やくそくを守ります」では、時間を守ることなどの約束を守ったりと、落ち着いて行動できるようになってきた。生活科の「町探検に行こう」や校外学習では、安全な道路の歩き方や公共物の使い方などを理解し、自分勝手な行動をせず約束を守って楽しく活動することができた。

その一方で、他人の立場を考えて行動することが難しく、学級文庫の本を乱雑に扱ったり、給食の後片付けが乱雑になったりする児童もいる。また、遊びや、活動に夢中になると自分勝手になり、

廊下を走ってしまうなどの自分勝手な行動が見られた。

そこで、本学級の児童が「どんな約束を守ろうとしているか」や「どんな約束は守れなかったのか」「なぜ、守れなかったのか」等について知るために、アンケートを行った。

児童へのアンケート結果（令和3年9月13日 実施）

① 約束やきまりは大切だと思いますか。

はい 名

いいえ 名

② あなたが守ろうと気を付けているきまりや約束は何ですか。

廊下や階段の歩き方 名 水道の使い方 名 話の聞き方 名

掃除の約束 名 給食の約束 名 時間を守る 名 友達と仲良くする 名

③ あなたが守れなかったきまりや約束は何ですか。

廊下や階段の歩き方 名 話の聞き方 名

時間を守ること 名 友達と仲良くすること 名

④ なぜ、守れなかったのですか。

早く遊びたいので慌てていた 名 がまんできなかった 名

友達もやっていたので、まねをしてしまった 名

⑤ その時、どんな気持ちでしたか。

嫌な気持ち 名 すっきりしない気持ち 名

こんな事しなければ良かったという気持ち 名 もうやめよう 名

「約束やきまりは大切だと思いますか。」の問いに対し、全員が「はい」と答えた。しかし、実際の学校生活では、自分勝手な行動をしている児童が多く見られ、意識と行動にズレが見られる。さらに、「あなたが守ろうと気を付けているきまりや約束は何ですか。」の問いに対しては、「廊下や階段の歩き方」と答えた児童が多い。「守れなかったきまり」についても、「廊下や階段の歩き方」と答えた児童が多かった。「なぜ、守れなかったのか」については、「早く遊びたいので慌てていた」「友達もやっていたので、まねをしてしまった」と答えた児童が多かった。約束を守らなければいけないと分かっているが、心の弱さからきまりを破ってしまったり、悪いことに同調してしまったりする児童が多いことが分かった。そして、同じ約束でも守れる時と守れない時がある事が分かった。

このことから、自分勝手な行動をしてしまうと、自分だけでなく友達や周りの人を不快な気持ちにさせてしまうことがあることに気付かせ、いつでも身近な生活場面において約束を守っていかうとする態度を育てる必要があると考える。

本教材では、約束を守らなければいけないと分かっているが、心の弱さや誘惑などから約束を守ることができない子鹿達の気持ちに十分共感させ、自分勝手な考え方をしないでみんなのことを考えて行動していくことによりお互いに気持ちよく生活ができることについて自分事で考えさせた。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、2年生の児童が、集団生活に関わるきまりを守ることについて考えることを通して、ねらいに迫るものである。子鹿達が群れの約束である「秋に実がなるまで木の葉を食べてはいけない

い」というきまりを守ることができず、みんなが楽しみにしている木の実が秋には一つもならなかった様子が描かれている。「少しだけだから大丈夫」と自己中心的な考えで行動する主人公の子鹿達の気持ちに十分共感させながらも、きまりを守らなかったことにより周りの人に多大な迷惑をかけてしまうことに気付かせ、約束を守っていくことの大切さを考えさせたい。

導入では、約束やきまりに関するアンケートの結果から「きまりや約束を守るためにどんな気持ちが必要なんだろう」という課題を設定する。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合う。

- ① 新芽が出始めたころ「少しだけだから」と葉を食べてしまう場面では、悪い事とは知りながらもきまりを守らないマー君の気持ちを考えることを通して、道徳的問題を生じさせる心の弱さに共感させる。
- ② 「大丈夫。少しだけなもの」とマー君に言われたモコちゃんが、食べるか約束を守るのか葛藤をする場面を考えることを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考えられるようにする。
- ③ 秋になり鹿達が楽しみにしていたオレンジ色の木の実が一つもならず、みんなに迷惑をかけてしまったことに気付く場面では、自分達のしたことを後悔する子鹿達について考えさせる。
- ④ 「マー君やモコちゃん達にどんな気持ちがあれば、約束を守れたのか。」考えさせることにより、道徳的問題を生じさせる心の弱さに負けないためにはどうすればよいかを自分事で考えさせ、道徳的価値についての理解を深めさせる。

これらの4つの場面を通して、子鹿達に無意識に自分を重ね合わせて考え、自分との関わりで道徳的価値について考えられるようにしていく。

展開後段では、「きまりや約束を守るためにどんなことを心がけたいか。」を問い、日常生活の中で約束を守ることの大切さを考えさせ規則の尊重に関する価値理解を深めさせる。終末では、本時の授業で話し合ったことを基に、今後もきまり約束を守っていこうとする道徳的実践意欲を高めていく。

以上のことを踏まえ、「規則の尊重」についての理解を基に、自己を見つめ物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己の生き方についての考えを深めたいと考え、本主題「きまりをまもろう」を設定した。

4 研究主題との関わり

《研究主題》

自他を大切にし、よりよく生きようとする児童の育成

～考えを深める道徳科の指導法の工夫、改善を中心として～

仮説1

児童が問題意識をもち、主体的に道徳的価値について語り合う道徳科の授業を展開すれば、自他を大切にし、よりよく生きようとする児童を育成できるであろう。

仮説1にせまるために、次のような手立てを講じる。

(1) 発問の工夫

- ・導入では、約束やきまりに関するアンケート結果を用い、ねらいとする道徳的価値への方向づけを図り、「きまりや約束を守るにはどんな気持ちが大切だろう。」という問題意識を高める。
- ・「マー君は、葉をそっと食べながらどんなことを考えたか。」「『大丈夫。少しだけだもの』とマー君に言われたモコちゃんは、どんなことを考えていたのか。」「秋になって実が一つも残っていないのを見たマー君やモコちゃん達はどんなことを考えたか。」という発問を投げかけ主人公を共感的に捉えることにより、多面的な思考を促すことができるようにする。
- ・中心発問「マー君やモコちゃん達にどんな気持ちがあれば、約束を守れたのか。」では、主人公を分析的に見る発問をすることにより、道徳的価値を自分事として捉えられるようにする。

(2) 話合いの工夫

- ・ハートメーターを活用し、児童の本音を引き出し、自分の考えと友達の考えを比べることにより道徳的価値を多面的・多角的に考えられるようにする。
- ・ペアで意見交換することにより、道徳的価値を多面的・多角的に考えられるようにする。
- ・ICT（ムーブノート）を活用し思考を可視化することにより、自分の考えと友達の考えを比べ、道徳的価値を多面的・多角的に考えられるようにする。
- ・導入と展開後段での自己を見つめる場面では、アンケートを基にし自分の生活経験を想起させ、道徳的問題を生じさせる心の弱さに負けないできまりや約束をどのように守っていきたいか自分事で考えさせる。

(3) 板書の工夫

- ・黒板に場面の变化に合わせた木の絵を貼り、児童の興味・関心を引きつけ臨場感をもたせることにより、児童が森の鹿達に共感できるようにする。

仮説2

道徳科と全教育活動との関連や、家庭・地域との連携を生かした道徳教育を推進し、豊かな体験活動を充実すれば、自他を大切にし、よりよく生きようとする児童を育成できるであろう。

仮説2にせまるために、次のような手立てを講じる。

- (1) 道徳の足あとを掲示し、道徳の授業や学校行事等を道徳的な視点から伝え、共通理解を図れるようにする。
- (2) 別葉の活用をすることにより、1年間の全教育活動や体験活動との関わりを明確にする。

【本時における人権感覚育成のための視点】

(視点) 権利と責任

(内容) 人間らしく生きるため、権利に基づいて行動し、その行動に責任をもつ。

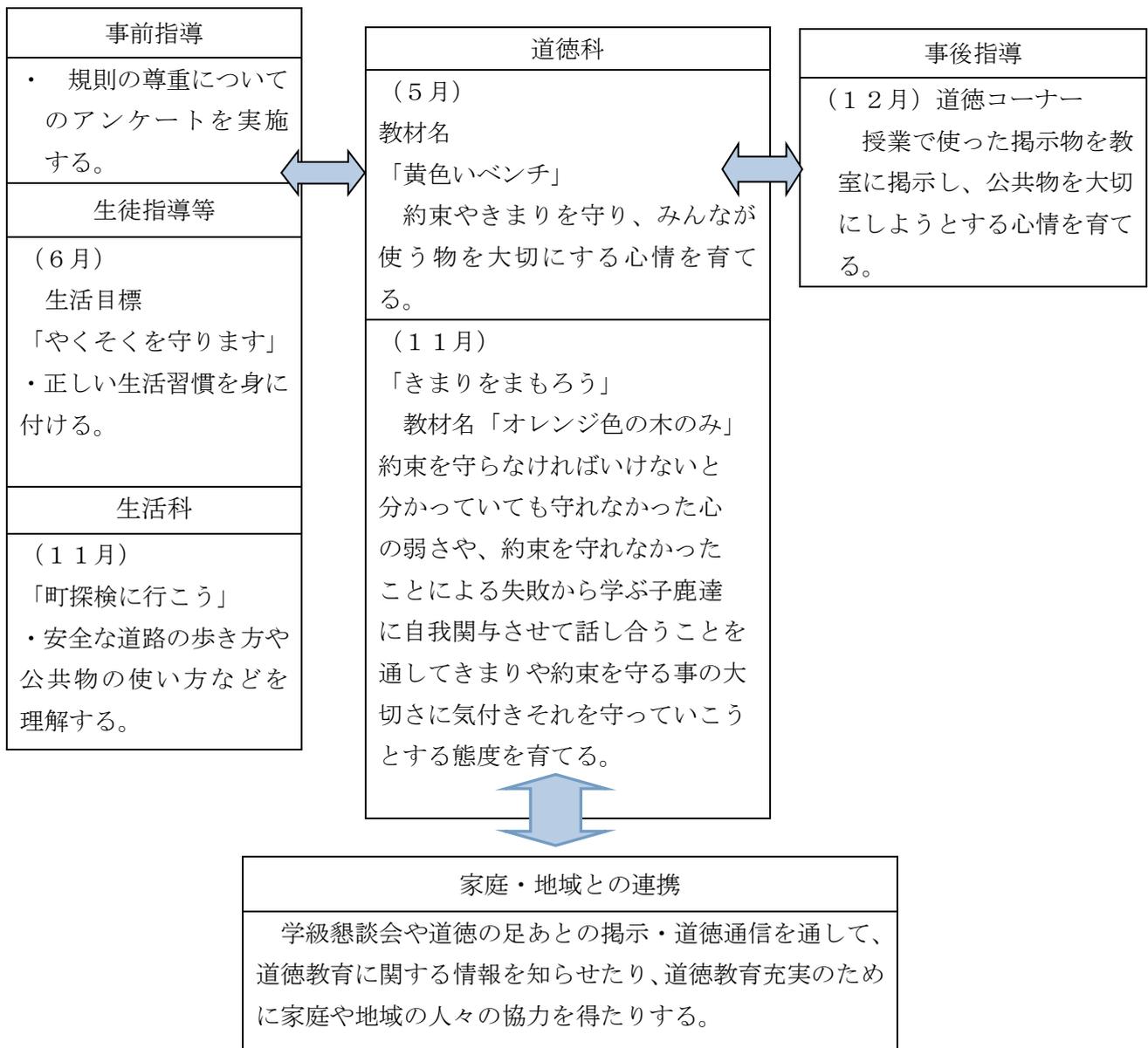
5 学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価（評価方法） ◆人権感覚育成の視点	時間
導入	1 約束やきまりについて話し合い、本時の学習課題を知る。		・アンケート結果を提示し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図り、問題意識を高める。	3
きまりややくそくをまもるには どのような気持ちが大せつだろう。				
展開	2 教材「オレンジ色の木のみ」について知る。 ・登場人物・条件 ・状況		・登場人物、条件、状況について押さえる。 ・森の鹿達が、実るのを楽しみにしていた甘い木の実であることや、秋まで食べてはいけない約束があることを父母から強く言われていたことを押さえる。	5
<p>○登場人物：森の鹿マーくん、モコちゃん、ターくん達</p> <p>○条件・状況</p> <p>・森の子鹿マーくん達は、お父さんやお母さん鹿から言われていたことを破り、秋になると実る森の斜面の甘い木の葉を食べてしまう。</p>				
	3 読み聞かせを聞く。 ・「マー君やモコちゃん達」の気持ちになって聞きましょう。		・聞く視点を示し ICT を活用し読み聞かせをすることにより、話の内容を捉えやすくする。	
ふかめる	4 前半の読み聞かせを聞き、「マー君」・「モコちゃん」の気持ちについて話し合う。 (1) マー君は、葉をそっと食べながらどんなことを考えたか。	・家の人と約束したけど、おもしろいからがまんできない。 ・少しだけなら、大丈夫だ。 ・また、生えてくるから大丈夫。	・90ページから91ページの12行目までの読み聞かせをする。 ・悪い事とは知りながらも約束を守らないマー君の気持ちを考えることを通して、道徳的問題を生じさせる心の弱さに共感させる。	25

<p>(2) 「大丈夫。少しだけだもの」とマー君に言われたモコちゃんは、どんなことを考えていたのか。</p> <p>・後半の読み聞かせを聞き、約束を守る事の大切さについて考える。</p> <p>(3) 秋になって実が一つもなっていないのを見たマー君やモコちゃん達はどんなことを考えたか。 補→森の鹿達はどんな気持ちだったか。</p> <p>(4) マー君やモコちゃん達にどんな気持ちがあれば、約束を守れたのか。</p>	<p>ピンク：約束を守ろうとする気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの大切な木の実だから、食べるのをがまんしよう。 ・怒られたくないから約束を守ろう。 <p>青：食べたい気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マー君も食べてるから大丈夫 ・少しだけだから大丈夫。 <p>・約束を破ってしまったので大人の鹿達に怒られてしまう。</p> <p>・木の葉を食べなければ良かった。</p> <p>・お年寄りの鹿やお母さん鹿は困っているだろう。みんなに迷惑をかけてしまった。</p> <p>・みんなの事を考えて、みんなの実を大切にする気持ち。</p> <p>・みんなのために約束を守ろうとする強い気持ち。</p> <p>・食べたくてもみんなのために我慢して約束を守ろうとする強い気持ち。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートメーターを活用し、食べるか、約束を守るか迷っている心の葛藤を可視化する。 ・ハートメーターを活用し児童の本音を引き出し、自分の考えと友達の考えを比べることにより、道徳的価値を多面的・多角的に考えさせる。 <p>・みんなに迷惑をかけてしまったことに気付く子鹿達について考えさせる。</p> <p>・約束を破ってしまうという道徳的問題を生じさせる心の弱さに負けないためには、どうすればよいかをペアで意見交換させる。</p> <p>☆自分の弱い心に負けないできまりや約束を守っていかうとする気持ちについて話し合っている。 (発言)</p> <p>◆人間らしく生きるため、権利に基づいて行動し、その行動に責任をもつ。 (権利と責任)</p>
---	---	---

	見 つ め る	<p>5 今日の学習をもとに、課題について自分自身を振り返る。</p> <p>(1) きまりや約束を守るためにどんなことを心がけたいか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを基にし生活経験を想起させ、道徳的問題を生じさせる心の弱さに負けずにきまりや約束を守るには、どうすればよいかを自分事で考えさせる。 ・ICT（ムーブノート）を活用し思考を可視化することにより、自分の考えと友達のを比べ、道徳的価値を多面的・多角的に考えられるようにする。 <p>☆きまりや約束を守ることによってみんなが気持ちよく生活できることについて自分との関わりで考えている。(ノート・発言)</p>	10
終 末	あ た た め る	<p>6 学習の振り返りをする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・きまりや約束を守ろうとする実践意欲を高める。 	2

6 他の教育活動との関連



7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- 自分の弱い心に負けないできまりや約束を守っていかうとする気持ちについて話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- きまりや約束を守ることによってみんなが気持ちよく生活できることについて自分との関わりで考えている。

8 板書計画

オレンジ色の木のみ
 マーくん 友だちのモコちゃん

オレンジ色のあまいおいしいみになる しかたが楽しみにしている
 年よりのしか 元気になる
 おかあさんじかのえいよう

きまりや やくそくをまもるには、どんな気持ちが大せつだろう。

<p>場面絵</p>	<p>場面絵</p>	<p>場面絵</p>	<p>場面絵</p>
<p>みんなのことを考えて きまりや やくそくをまもろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約束を破ってしまったので大人の鹿達に怒られてしま ・木の葉を食べなければ良かった。 ・お年寄りの鹿やお母さん鹿は困っているだろう。みんなに迷惑をかけてしまった。 	<p>「少しだけだもの。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの大切な木の実だから、食べるのをがまんしよう。 ・怒られたくないから約束を守ろう。 ・マー君も食べるから大丈夫 ・少しだけだから大丈夫。 	<p>「このはっぱ、食べてもいいのかな。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の人と約束したけど、おいしそうだからがまんできない。 ・少しだけなら、大丈夫だ。 ・また、生えてくるから大丈夫。 	<p>やくそく</p> <p>この木がやわらかいはを出しても食べてはいけないよ。 秋にみがるまでがまんしなさい。</p>